

令和2（2020）年度博士前期課程（一般選抜・春期試験）問題 目次

専門試験		ページ
文化形態論	哲学哲学史	2～3
	現代思想文化学	4～5
	臨床哲学	6
	中国哲学	—
	インド学・仏教学	—
	日本学	7～8
	日本史学	9～17
	東洋史学	—
	西洋史学	18～19
	考古学	20～22
	人文地理学	23～24
文化表現論	日本文学	25～28
	比較文学	29～31
	中国文学	32～33
	英米文学	34～37
	ドイツ文学	—
	フランス文学	38～39
	国語学	40～42
	日本語学	43
	英語学	—
	美学	—
	文芸学	—
	音楽学	44～46
	演劇学	—
	日本・東洋美術史	—
	西洋美術史	47～48

令和2(2020)年度  
大阪大学大学院文学研究科(博士前期課程／一般選抜・春期試験)入学者選抜試験問題  
文化形態論専攻 哲学哲学史専門分野 筆記試験

[ 問題用紙は2枚あります。]

( 1枚目／2枚中 )

注意 ①解答はすべて所定の解答用紙に記入すること  
②問題用紙は持ち帰ること

I 以下の英語文全文および独語文全文をそれぞれ日本語に訳しなさい。

①

A thing, if it is to be called such, must occupy some duration beyond the present moment, and hence succession is essential. The thing, to be at all, must be the same after a change, and the change must, to some extent, be predicated of the thing. If you suppose a case so simple as the movement of an atom, that is enough for our purpose. For, if this 'thing' does not move, there is no motion. But, if it moves, then succession is predicated of it, and the thing is a bond of identity in differences. And, further, this identity is ideal, since it consists in the content, or in the 'what we are able to say of the thing'. For raise the doubt at the end of our atom's process, if the atom is the same. The question raised cannot be answered without an appeal to its character. It is different in one respect—namely, the change of place; but in another respect—that of its own character—it remains the same. And this respect is obviously identical content.

<F. H. Bradley, *Appearance and Reality: A Metaphysical Essay*, reprinted ninth impression of second edition, Oxford University Press, 1955, p. 62, l. 3 - l. 20.>

②

1. Schon vor Jahren hat mich die Frage beschäftigt, ob das Grün eine einfache Farbe, oder ob es aus Blau und Gelb zusammengesetzt sei. Und wieder und wieder bin ich zu der Untersuchung zurückgekehrt. Heute glaube ich ihr Ergebnis genugsam gesichert; doch da es der Ansicht der hervorragendsten Forscher unserer Zeit entgegen ist, so würde ich Ihnen aufrichtig dankbar sein, wenn Sie mit recht kritischem Blicke meiner Darlegung folgten.

2. Zunächst gilt es klarzustellen, worum es sich handelt; denn die Vieldeutigkeit gewisser Ausdrücke könnte hier wie anderwärts Mißverständnis und Verwirrung herbeiführen.

Es war eine Zeit, wo man glaubte, unsere Gesichtsempfindungen gäben uns ein wesentlich treues Bild der Außenwelt. Diesen Wahn hat der Fortschritt der Wissenschaft zerstört; wir wissen heute, daß die Lichtstrahlen, welche unsere Gesichtsempfindungen erregen, und die Körper, welche solche Strahlen entsenden oder reflektieren, in ihrer Qualität dem, was uns in der Empfindung erscheint, nicht wahrhaft ähnlich sind.

<Franz Brentano, *Untersuchungen zur Sinnespsychologie*, Felix Meiner Verlag, 1979, S. 5, Z. 6-24.>

( 2枚目／2枚中 )

II 以下の語句の中から、2項目を選択し、その番号を記した上で3行程度で解説しなさい。

- 1 弁証法
- 2 言語ゲーム
- 3 オッカムの剃刀
- 4 モナド
- 5 世界内存在

III 共同体と規範の関係について論じなさい。

令和2(2020)年度  
大阪大学大学院文学研究科(博士前期課程／一般選抜・春期試験)入学者選抜試験問題  
文化形態論専攻 現代思想文化学専門分野 筆記試験

[ 問題用紙は2枚あります。]

( 1枚目／2枚中 )

注意 ①解答はすべて所定の解答用紙に記入すること ②問題用紙は持ち帰ること
--

I 下記の設問に答えなさい。

① (英作文小論説)

人工知能と倫理について、英語で論じなさい。(10行程度)

② (英語読解) 次の英文全体を、日本語に訳しなさい。

問題文は、著者の著作権等に配慮し、省略します。なお、出典は次のとおりです。

(Karin Knorr Cetina, *Epistemic Cultures: How the Sciences Make Knowledge*, Harvard University Press, 1999, p. 2, ll. 10-20.)

( 2枚目 / 2枚中 )

II 以下の語句の中から、2項目を選択し、その番号を記した上で3行程度で解説しなさい。

- 1 監視社会
- 2 適正技術
- 3 研究プログラム (ラカトシュ)
- 4 ヒポクラテスの誓い
- 5 NIMBY

III 現代社会における大学の役割について論じなさい。

令和2(2020)年度  
大阪大学大学院文学研究科(博士前期課程/一般選抜・春期試験)入学者選抜試験問題  
文化形態論専攻 臨床哲学専門分野 筆記試験

[問題用紙・添付資料がそれぞれ1枚です]

問題1 あなたが臨床哲学において今後取り組む研究・活動について、これまでの研究との関係を明らかにしながら、目標・目的、方法、具体的計画を述べなさい。

問題2 添付資料「身体の政治は何を纏うか：不妊治療と出生前診断」(重田園江)の「はじめに」を踏まえて自由に論じなさい。

問題文は、著者の著作権等に配慮し、省略します。なお、出典は次の通りです。  
重田園江「身体の政治は何を纏うか：不妊治療と出生前診断」『現代思想』2019年9月号(青土社)108頁～110頁3行

問題3 次の英文を読み、第2・3段落だけを和訳しなさい。

問題文は、著者の著作権等に配慮し、省略します。なお、出典は次の通りです。  
Judith Lewis Herman, *TRAUMA and RECOVERY: The Aftermath of Violence – From Domestic Abuse to Political Terror*, Basic Books, N.Y., 1992. p. 10. 1-32行

令和2（2020）年度  
大阪大学大学院文学研究科（博士前期課程／一般選抜・春期試験）入学者選抜試験問題  
文化形態論専攻 日本学専門分野 筆記試験

[問題用紙は2枚です。]

(1枚目/2枚中)

[I] 次の項目から、3項目を選んで説明しなさい。

- (1) 護国派      (2) 懐徳堂      (3) 政教社      (4) 農山漁村経済更生運動  
(5) 民族学級      (6) 全国総合開発計画      (7) 大田昌秀      (8) 戦争遺跡  
(9) 両墓制      (10) エドアルド・キヨッソーネ      (11) 金子文子      (12) 不敬罪

[II] 次の4問のうちの1つを選んで答えなさい。

- (1) 近世日本における儒教と社会の関係について、中国・朝鮮の場合と比較しながら論じなさい。  
(2) 1980年代に日本研究が盛んになる背景と、そこでの日本論のもつ傾向について、前後の歴史的  
文脈も示しながら論じなさい。  
(3) 「記憶」と「歴史」の関係について、具体的な事例に即して論じなさい。  
(4) 「記念碑」が人々の統合／分断をもたらすことについて、具体的な事例を挙げながら論じなさい。

(2 枚目 / 2 枚中)

〔Ⅲ〕 次の文章は、Andrew Gordon, *A Modern History of Japan: From Tokugawa Times to the Present*, International Third Edition (Oxford University Press, 2014) の一節 (72 頁 44 行目～73 頁 32 行目) である。これを読んで、次の問いに答えなさい。

1. 下線部①を日本語訳しなさい。
2. 下線部②について、“respect” と “anger” が “coexist” することになったのはなぜか、簡潔に説明しなさい。
3. 下線部③の観点を踏まえつつ、近現代日本の西洋観について、具体的事例を挙げながら論じなさい。

\* 下線部①は 73 頁 14 行目 “They” からそのパラグラフの終わりまで。

\* 下線部②は 73 頁 20 行目 “This” から 22 行目 “powers” まで。

\* 下線部③は 73 頁 27 行目 “the West” から 28 行目 “opportunity” まで。

問題文は、著者の著作権等に配慮し、省略します。なお出典は上記のとおりです。

令和2（2020）年度  
大阪大学大学院文学研究科（博士前期課程／一般選抜・春期試験）入学者選抜試験問題  
文化形態論専攻 日本史学専門分野 筆記試験

[問題用紙は9枚です]（1枚目 / 9枚中）

【注意】設問（I）については、解答用紙は縦長に使い、横書きで解答して下さい。

（I）外国語問題

次の英文は、バジル・ホール・チェンバレンの著作の一部である。この文章を日本語に訳しなさい。[15点]

著作権に配慮して、本文は省略します。なお、出典は以下の通りです。

【出典：Basil Hall Chamberlain (1890). *Things Japanese* : Being notes on various subjects connected with Japan. Tokyo, Japan : Hakubunsha】

（問題文は次に続く）

(二枚目／九枚中)

【注意】設問(Ⅱ)～(Ⅴ)については、解答用紙は横長に使い、縦書きで解答して下さい。

(Ⅱ) 次の問いに答えなさい。

[25点]

古代・中世・近世・近代のそれぞれの時代における裁判制度について、具体的に述べなさい。

(Ⅲ) 次の歴史的名辞(1)～(4)のうち三つを選び、研究史上の論点をふまえつつ説明しなさい。

[15点]

(1) 壺田永年私財法

(2) 宝治合戦

(3) 三方領知替

(4) 吉野作造

(問題文は次に続く)

(三枚目／九枚中)

(Ⅳ) 次の設問(1)～(4)のうち、二つを選んで答えなさい。

〔30点〕

- (1) 次の史料は、黒板勝美・国史大系編集会編『新訂増補国史大系 22 律・令義解』(完成記念版、吉川弘文館、一九六六年)からの引用である。『令義解』田令口分条を読んで、①～③の問いに答えなさい。

著作権に配慮して、本文は省略します。なお、出典は以下の通りです。

〔黒板勝美・国史大系編集会編『新訂増補国史大系 22 律・令義解』(完成記念版、吉川弘文館、一九六六年)一〇七頁〕

- ① 『令義解』の編者について人名を答えなさい
- ② 注釈部分(細字双行の部分)を漢字・平仮名交じりの書き下し文にしなさい。
- ③ 注釈部分(細字双行の部分)もふまえ、口分田はどのように班給される原則であったのか、説明しなさい。

(問題文は次に続く)

(四枚目／九枚中)

(2) 次の史料は、『日本思想大系 21 中世政治社会思想 上』(岩波書店、一九七二年)からの引用である。この史料を読んで、①～⑤の問いに答えなさい。

著作権に配慮して、本文は省略します。なお、出典は以下の通りです。

【石井進・石母田正・笠松宏至・勝俣鎮夫・佐藤進一校注『日本思想大系 21 中世政治社会思想 上』(岩波書店、一九七二年) 一四六頁】

- ① 本史料は何と呼ばれるものか。その名称を答えなさい。
- ② 傍線 a の「右幕下」とは誰を指すか。その人名を答えなさい。
- ③ 傍線 b を漢字・平仮名交じりの書き下し文にしなさい。
- ④ 傍線 c を漢字・平仮名交じりの書き下し文にしなさい。
- ⑤ 傍線 d を現代語訳しなさい。

(問題文は次に続く)

(五枚目／九枚中)

(3) 次の史料は、石井良助編『近世法制史料叢書2 御当家令条・律令要略』(創文社、一九五九年)に収められた「御当家令条」所収のものである。この史料を読んで、①②の問いに答えなさい。

著作権に配慮して、本文は省略します。なお、出典は以下の通りです。

【石井良助編『近世法制史料叢書2 御当家令条・律令要略』(創文社、一九五九年)  
一五二頁】

- ①この「覚」の第五条目を現代語訳しなさい。
- ②この「覚」から、この時期における幕藩領主の農村支配上の問題点、およびそれに対する幕府の方針について述べなさい。

(問題文は次に続く)

(4) 次の史料は、徳富蘇峰が『国民之友』一五号(一八八八年二月三日付)に掲載した「田舎紳士」論の一節である。この史料を読んで、①～⑤の問いに答えなさい。

斯の如く一方に於ては政府の味方をなし、保守論を唱ふるの士族あれば、他方に於ては政府に反対し、自由論を唱ふるの士族もあり。然して其唱ふる所の自由論は、誠に單純潔白にして、恰もジョン、ハンプデン、パツリク、ヘンリーをして唱へしむるも、此に過ぎざる可しと思はるゝ程結構なる者なりと雖も、其自由論なる者は、随分勝手次第の自由論にして、稍もすれば自由論の主張者が、朝鮮を侵略せよと謂ひ、支那を蹂躪せよと謂ひ、然して其の平生の挙動言行なるものは、多くは自由論の圏範より飛び離れたる事を爲し、誠に傍人をして其不思議を感じしむる者なきに非ず。蓋し渠等の言ふ所行ふ所を察するに、止むに止まれぬ必要よりして之を言ひ之を行ふに非ずして、兎に角言ひ得らるゝ丈は何にても言ひ得んとし、行ひ得らる丈は何にても行ひ得んとするが如き有様に見受けらる者、滔々皆然りとす。乃渠輩が天下の爲めに奔走するは身に直接の利害無くして、多くは他人の爲めに代言するに過ぎず。自からは一升の酒も造らずして酒税軽減の建白に奔走し、自からは掌大の田園も有せずして地租軽減の請願に従事し、自からは国会議員の資格なきに国会の事を喋々し、斯くの如く吾が身に切ならざる事に尽力するは、誠に他人の爲めに身を致し、同胞を愛し天下を愛する者なれば、敬服するの外なしと雖も、之れが爲めに平和の運動も動もすれば粗暴となり、秩序の事業も動もすれば不都合となり、一定の主義も動もすれば自家撞着となり、人をして自由論の価値を減ぜしむるの憂ひを懐かしめたる事も亦少なからずとす。乃ち一国の政権を得んと欲する者は先づ一己の私権を得ること肝要なるに、彼の人々が家を破り身を破り、而して一国の政権を得んとするを見ては、何人と雖も其不思議なるに驚くべし。然れども是れ決して不思議なるに非ず。彼の士族なる者は封建以来一国の運動力にして、斯の運動力なる者は所謂「士族根性」より湧き来るものにして、即ち此の「士族根性」が自由論の仮面を蒙りて出で来りたるのみ。士族が明治年間に於て「士族根性」の爲めに鼓舞せられ、自家撞着の運動をなすは、恰も動物園中の水狸が猶ほ水堤穴居の旧時を忘るゝこと能はずして、庭上の土を穿つが如きのみ。

- ①史料中の「        」で括った部分について、その内容を史料の記述に即して正確にまとめなさい。
- ②傍線aが指している事柄について知るところを述べなさい。
- ③傍線bに関連して、一八八七年に広がった三大事件建白運動について知るところを述べなさい。
- ④傍線cの文章の政治的背景について、自由民権運動の展開をふまえて述べなさい。
- ⑤傍線dの「士族根性」とは何か、史料中の文章を用いて四〇字程度で述べなさい。

(問題文は次に続く)

(七枚目／九枚中)

(V) 次の設問(1)～(3)のうち、一つを選んで答えなさい。

[15点]

(1) 次の古文書を漢字・平仮名交じりの書き下し文にしなさい。解答にあたっては、できるだけ原文にしたがって改行すること。

著作権に配慮して、本文は省略します。なお、出典は以下の通りです。

【外園豊基編 『中世古文書の散策』(教育出版株式会社、一九九三年)二五頁】

(問題文は次に続く)

(2) 次の古文書の見取書(くずし字をそのまま現在の文字に置きかえて写すこと)を記しなさい。なお、原文にしたがって改行すること。

一 お對免由仁名事

是の由り免由仁名事  
お果物氣湯湯の由り  
及今由り免由仁名事  
お果物氣湯湯の由り  
及今由り免由仁名事  
お果物氣湯湯の由り  
及今由り免由仁名事

(大阪大学所蔵近世古文書)

(問題文は次に続く)

(九枚目／九枚中)

(3) 次の史料は、一八九〇年九月一日に宮城県知事松平正直が福島県知事山田信道に送った照会である。この史料の「        」で囲んだ部分について、見取書(くずし字をそのまま現在の文字に置きかえて写すこと)を記しなさい。

著作権に配慮して、本文は省略します。なお、本文の内容は明治中期の  
地方行政関係文書です。

令和2（2020）年度  
大阪大学大学院文学研究科（博士前期課程／一般選抜・春期試験）入学者選抜試験問題  
文化形態論専攻 西洋史学専門分野 筆記試験

[問題用紙は2枚です。]  
(1枚目/2枚中)

注意 解答は、別紙解答用紙に問題番号を書いてから記入しなさい。また、各問題の枝間の記号や番号も記すこと。

設問1. ①～②から1問を選択し、解答しなさい。

① 食糧供給は都市や国家による統治の重要な要素であった。従って、食料供給問題を取りまくシステムは、それぞれの社会の政治文化の現れである。そのような事例をひとつ取り上げて論じなさい。

② 1950年代における「第三世界」の台頭はいかなる歴史的経緯の中で実現したか。また、かかる展開は20世紀後半の欧米史をどのように方向付けたと考えられるか。具体的な事例にふれながら論じなさい。

設問2. 次の頁の英文を読んで、下記の①～③の問いに答えなさい。

(出典：A.G. Hopkins, *American Empire: A Global History*, Princeton, 2018, pp. 12-15.)

① 下線部 (a) の内容を、具体的に400字以内で説明しなさい。

② 下線部 (b) の英文を、日本語に翻訳しなさい。

③ 下線部 (c) の“A further limit”の内容を、具体例を交えて説明しなさい。

令和2(2020)年度  
大阪大学大学院文学研究科(博士前期課程/一般選抜・春期試験)入学者選抜試験問題  
文化形態論専攻 西洋史学専門分野 筆記試験

[問題用紙は2枚です。]  
(2枚目/2枚中)

問題文は、著者の著作権等に配慮し、省略します。

令和2(2020)年度  
大阪大学大学院文学研究科(博士前期課程/一般選抜・春期試験)入学者選抜試験問題  
文化形態論専攻 考古学 専門分野 筆記試験

[問題用紙は3枚です。]  
(1枚目/3枚中)

問1 弥生・古墳時代における年代研究の現状について、これまでの研究の歴史もふまえて詳しく説明  
しなさい。

問2 王権の成立過程に関して、日本ならびに海外の考古学的な事例を挙げながら、詳しく論じなさい。

問3 次の英文を読んで、以下の問いに答えなさい。

- (1) 全体を日本語に訳しなさい。
- (2) 下線部のことが、日本および世界の考古学における既存の理解を根本的に訂正した事例を一つずつ  
挙げて、それぞれ詳しく説明しなさい。

問題文は、著者の著作権等に配慮し、省略します。なお、出典は次のとおりです。

Glyn Daniel, 1976, *A Hundred and Fifty Years of Archaeology*, Harvard University Press, p. 353

ll.7-17.

(2枚目 / 3枚中)

問4 次の英文を読んで、以下の問いに答えなさい。

- (1) ①の枠内を日本語に訳しなさい。
- (2) 下線部②について詳しく説明しなさい。

問題文は、著者の著作権等に配慮し、省略します。なお、出典は次のとおりです。

Leonard Woolley, 1938, *Ur of the Chaldees*, Penguin Books, p.68 ll.15 - 33.

(3枚目 / 3枚中)

**問5** 次の英文を読んで、以下の問いに答えなさい。

- (1) 全体を日本語に訳しなさい。
- (2) 下線部の内容について、具体的に説明しなさい。

問題文は、著者の著作権等に配慮し、省略します。なお、出典は次のとおりです。

T. C. Patterson and C. E. Orser Jr. eds., 2004, *Foundations of Social Archaeology*, AltaMira Press, p.46, ll.2・14.

**問6** 次の語句等について、それぞれ詳しく説明しなさい。

- (1) 墨古沢遺跡
- (2) 水村里遺跡
- (3) 勝連城跡
- (4) ドルメン
- (5) ミトコンドリアDNA

令和2（2020）年度  
大阪大学大学院文学研究科（博士前期課程／一般選抜・春期試験）入学者選抜試験問題  
文化形態論専攻 人文地理学専門分野 筆記試験

[ 問題用紙は2枚です。 ]

（1枚目/2枚中）

（中辞典程度の英語辞書の持ち込みを可とします）

以下の問い（問1～問3）に答えなさい。解答は、解答用紙に記入すること。

問1

次の（a）～（i）は、地理学に関連する理論や概念を挙げたものである。これらの中から2つを選んで解説しなさい。なお、選んだ項目のアルファベットを明記すること。

- |           |           |                  |
|-----------|-----------|------------------|
| (a) 環境決定論 | (b) 文化的適応 | (c) レッシュの空間経済モデル |
| (d) 産業集積  | (e) 孤立国   | (f) 時間地理学        |
| (g) 計量革命  | (h) 電子基準点 | (i) 世界都市         |

問2

次の（a）～（d）の問いの中から1つを選んで解答しなさい。なお、選んだ項目のアルファベットを明記すること。

- (a) P.ハゲットの地理学観について論じなさい。
- (b) 日本の都市郊外に関する研究について、具体的事例を挙げて論じなさい。
- (c) 中国の退耕還林について、その概要と問題点を挙げて論じなさい。
- (d) GNSS を利用した人間行動の研究事例を紹介し、その意義を述べなさい。

(2枚目/2枚中)

問3

つぎの英文を読んで、下の問い(問ア・問イ)に答えなさい。

問題文は、著者の著作権等に配慮し、省略します。なお、出典は次のとおりです。

Domosh, M. (2017) "Radical Intradisciplinarity: An Introduction". *Annals of the American Association of Geographers* 107(1), pp.1-3 より p.1 の本文左段 1-23 行部分を一部抜粋・改変。

問ア

下線部(a)に関して、この地理学者の自然地理学観における系統地理学と地誌学との弁証法的関係について述べなさい。

問イ

下線部(b)および下線部(c)に関して、この二つの用語で示される態様を参照しつつ、地理学の特色を説明しなさい。

令和二(二〇二〇)年度

大阪大学大学院文学研究科(博士前期課程)一般選抜・春期試験 入学者選抜試験問題

文化表現論専攻 日本文学専門分野 専門試験【問題用紙は四枚あります】

- 次の文章は、『東関紀行』の一節である。これを読んで、後の問いに答えなさい。(この問題について解答用紙一枚を用い、縦書きにすること)

尾張国熱田の宮に至りぬ。神垣のあたり近ければ、やがて参りて拝み奉るに、木立

A  


れて神さびたる中にも、①ねぐら争ふ鷺群(注1)の数も知らず梢に来るさま、雪の積もれるやうに見えて、遠く白き物から、暮れ行くままに静まりゆく声も、心すこく聞ゆ。

ある人のいはく、「この宮は素盞鳴の尊なり。初め出雲国に宮造りありけり。②「八雲たつ」といへる大和言葉も、これよりぞ始まれる。その後、景行天皇の御代に、この砌に跡を垂れ給へり」といへり。又いはく、「この宮の本体は、草薙と申し奉る神剣なり。景行の御子、日本武尊と申す、夷をたひらげて帰り給ふ時、尊は白鳥となりて去り給ふ。剣は熱田にとまり給ふ」ともいへり。

一条院の御時、大江匡衡といふ博士ありけり。長保(注2)の末にあたりて当国の守にて下りたりけるに、大般若(注3)を書きて、この宮にて供養をとげたりける願文に、「③吾が願すでに満ちぬ。任限また満ちたり。ふるさとへ帰らんとする期、いまだ幾ばくならず」と奉りたるこそ、あはれに心細く聞ゆれ。

- ④思ひ出もなくてや人の帰らまし法の形見をたむけおかずは

注1 鷺群—鷺のむれ。

注2 長保—平安時代の年号。西暦九九九年から一〇〇四年までの期間。

注3 大般若—『大般若波羅蜜多經』のこと。玄奘三蔵訳、六百巻。

問一 Aの画像部分の本文(二分分)を、振り仮名も含め正確に翻字しなさい。なお、濁点・改行は原文に従うこと。

問二 傍線部①をわかりやすく現代語訳しなさい。

問三 傍線部②「八雲たつ」といへる大和言葉」について、知っていることを述べなさい。

問四 傍線部③はどのようなことを述べているのか、考えを述べなさい。

問五 傍線部④の和歌を現代語訳しなさい。

〔二〕 次の文章は、大槻文彦が書いた、国語調査委員会編纂『口語法別記』(一九一七(大正六)年)の序論の一部分である。これを読んで、後の問いに答えなさい。(原文の表記を一部改めてある)  
(この問題について解答用紙一枚を用い、縦書きにすること)

○東国の言葉は、昔は、京都の人からは賤しめられて居った。源氏物語の宿木、東屋などに、東国の言葉を「あづま声」と云い、平家物語に斎藤実盛の言葉を「坂東声」と云つてある。拾遺集に「あづまにて、養はれたる人の子は、舌だみてこそ、物は言ひけれ」、とあるのでも分る。然るに、東国武士の勢が盛になり、鎌倉室町の世に、東国言葉が、京都言葉を襲つて、江戸の世となつて、又新に、江戸言葉が出来て、今では、(一)江戸言葉が、日本の口語の目当となるようになった。

江戸は、もと、空漠とした地に、新に、町を開いたものであるから、土地の者も居たろうが、畿内、東海道筋の町人が、多く集つて来たものであつて、江戸の言葉は、その初は、甚だ混沌としたものであつた。然るに、一方に、武士という者があり、戦国時代の余習で、旗本奴の大小の神祇組、又は、男達、町奴の六方組、白柄組、などいうものが、盛に出て来て、是等が、関東の荒くれた氣風を、言葉の上にも及ぼして、上方言葉のなまぬるいものを変じて、強く急なものとして、芝居の荒事狂言の上にも用いられ、それが広がつて、遂に、一つの江戸言葉というものが、成立つたものと思う。是が、元禄頃に至つて、一定したので、つまり、(二)関西と関東との言葉が、雜つて出来たものである。

京都の言葉は、東西南北に広がつて、遠くなるに随つて、段々に変わるが、その変り目は、色のほかしのように、はっきりと境目が分らぬが、(三)江戸言葉は、四里四方の内に限つて、其境を出ると、四方は、元の武蔵の言葉であるから、海中の島のようにである。これが俄に出来た都であるからである。しかし、江戸時代には、同じ江戸言葉の中で、町人言葉でも、山の手言葉、下町言葉、神田の職人言葉、吉原言葉、佃島言葉など、それぞれ違つて居た。武家の言葉の方でも、幕府の旗本言葉、御家人言葉、又は、諸国から勤番する者は別として、諸大名の江戸定府の家来の言葉などが、又異なつて居た。明治の世となつて、それが、大分混合して、諸国の侍などが、集つて常住するようになって、皆、江戸言葉に化せられるようになり、そうして漢学書生が、多く、政府の官員となり、学校の教員となつたから、漢語を遣う事が大に行われ、漢文の訓点書き下しの文語などが、口語にまじるようになり、遂に、今の東京言葉となつたのである。

○信濃越後と、美濃飛騨越中との間に、南北に亘る御岳系の大山脈で、言葉は、大凡、東西に分れて居る。万葉集の東歌と云うのも、遠江信濃から東である。(四)今の口語も、此山脈で分れて居ること、次のようである。(以下略)

問一 傍線部(1)は、どのようなことを言っているのか、簡単に説明しなさい。

問二 傍線部(2)について、現在の東京の言葉における関西言葉の要素について知るところを述べなさい。

問三 傍線部(3)について、江戸言葉と江戸の外側の言葉との違いについて、知るところを述べなさい。

問四 傍線部(4)に言うような、東西の方言の違いについて、知るところを述べなさい。その際、以下の二点に留意しなさい。①文法にかかわる事項など、なるべく体系的な違いについて述べること。②東京と関西の違いではなく、東日本と西日本の違いについて述べること。

〔三〕 次の文章は、中国の古典『西遊記』を中島敦が翻案した小説『悟浄歎異』（『南島譚』）（今日の問題社、一九四二）所収の一部です。これを読んで、後の問いに答えなさい。（この問題について解答用紙一枚を用い、縦書きにすること）

〔引用は『中島敦全集』（筑摩書房、一九七六）三三二―三三四頁〕

悟空は確かに天才だ。之は疑ひ無い。それは初めて此の猿を見た瞬間に直ぐ感じ取られたことである。初め、赭顔・鬚面の其の容貌を醜いと感じた俺も、次の瞬間には、彼の内から溢れ出るものに壓倒されて、容貌のことなど、すっかり忘れて了つた。今では、時に此の猿の容貌を美しい（とは云へぬ迄も少くとも立派だ）とさへ感じる位だ。其の面魂にも其の言葉つきにも、悟空が自己に對して抱いてゐる信頼が、生々として溢れてゐる。此の男は嘘のつけない男だ。誰に對してよりも、先づ自分に對して。此の男の中には常に火が燃えてゐる。豊かな、激しい火が。其の火は直ぐに傍にゐる者に移る。彼の言葉を聞いてゐる中に、自然に此方も彼の信ずる通りに信じないではゐられなくなつて来る。彼の側にゐるだけで、此方までが何か豊かな自信に充ちて来る。彼は火種。世界は彼の爲に用意された薪。世界は彼に依つて燃される爲に在る。

我々には何の奇異も無く見える事柄も、悟空の眼から見ると、悉く素晴らしい冒険の端緒だつたり、彼の壮烈な活動を促す機縁だつたりする。もと／＼意味を有つた外の世界が彼の注意を惹くといふよりは、寧ろ、彼の方で外の世界に一つ／＼意味を與へて行くやうに思はれる。彼の内なる火が、外の世界に空しく冷えた儘眠つてゐる火薬に、一々點火して行くのである。探偵の眼を以て其等を探し出すのではなく、詩人の心を以て（恐ろしく荒つぽい詩人だが）彼に觸れる凡てを温め、（時に焦す惧も無いではない。）其處から種々な思ひ掛けのない芽を出させ、實を結ばせるのだ。だから、渠・悟空の眼にとつて平凡陳腐なものは何一つ無い。毎日早朝に起きると決つて彼は日の出を拜み、そして、始めてそれを見る者の様な驚嘆を以て其の美に感じ入つてゐる。心の底から、溜息をついて、讚嘆するのである。これが殆ど毎朝のことだ。松の種子から松の芽の出かかつてゐるのを見て、何たる不思議さよと眼を瞠るのも、此の男である。

此の無邪氣な悟空の姿と比べて、一方、強敵と闘つてゐる時の彼を見よ！ 何と、見事な、完全な姿であらう！ 全身些かの隙もない逞しい緊張。律動的で、しかも一分の無駄も無い棒の使ひ方。疲れを知らぬ肉體が歡び・たけり・汗ばみ・跳ねてゐる。其の壓倒的な力量感。如何なる困難をも欣んで迎へる強靱な精神力の洋溢。それは、輝く太陽よりも、咲誇る向日葵よりも、鳴盛る蟬よりも、もつと打込んだ・裸身の・壯んな・没我的な・灼熱した美しさだ。あのみつともない猿の闘つてゐる姿は。

一月程前、彼が翠雲山中で大いに牛魔王と戦つた時の姿は、未だにはつきり、眼底に残つてゐる。感嘆の餘り、俺は其の時の戦闘経過を詳しく記録に取つて置いた位だ。

……牛魔王一匹の香獐と變じ悠然として草を喰ひゐたり。悟空之を悟り虎に變じ駈け來りて香獐を喰はんとす。牛魔王急に大豹と化して虎を撃たんと飛び掛かる。悟空之を見て猿となり大豹目掛けて襲ひかかれば、牛魔王、さらばと黄獅に變じ霹靂の如くに哮つて猿を引裂かんとす。悟空この時地上に轉倒すと見えしが、竟に一匹の大象となる。鼻は長蛇の如く牙は筍に似たり。牛魔王堪へかねて本相を顯し、忽ち一匹の大白牛たり。頭は高峯の如く眼は電光の如く雙角は兩座の鐵塔に似たり。頭より尾に至る長さ千餘丈、蹄より背上に至る高さ八百丈。大音に呼ばはつて曰く、爾惡猴今我を如何とするや。悟空又同じく本相を顯し、大喝一聲するよと見るまに、身の高さ一萬丈、頭は泰山に似て眼は日月の如く、口は恰も血池にひとし。奮然鐵棒を揮つて牛魔王を打つ。牛魔王角を以て之を受止め、兩人半山の中にあつて散々に戦ひければ、寔に山も崩れ海も湧返り、天地も之がために反覆するかと、すさまじかり。

何といふ壯觀だつたらう！ 俺はホツと溜息を吐いた。傍から助太刀に出ようといふ氣も起らない。孫行者の負ける心配が無いからといふのではなく、一幅の完全な名畫の上に更に拙い筆を加へるのを愧ぢる氣持からである。

災厄は、悟空の火にとつて、油である。困難に出會ふ時、彼の全身は（精神も肉體も）焰々と燃上る。逆に、平穩無事の時、彼は可笑しい程、しよげてゐる。獨樂のやうに、彼は、何時も全速力で廻つてゐなければ、倒れて了ふのだ。困難な現實も、悟空にとつては、一つの地圖——目的地への最短の路がハッキリと太く線を引かれた一つの地圖として映るらしい。現實の事態の認識と同時に、其の中にあつて自己の目的に到達すべき道が、實に明瞭に、彼には見えるのだ。或ひは、其の途以外の一切が見えない、といつた方が本當かも知れぬ。闇夜の發光文字の如くに、必要な途だけがハッキリ浮かび上り、他は一切見えないのだ。我々純根のものが未だ茫然として考へも纏まらない中に、悟空はもう行動を始める。目的への最短の道に向つて歩き出してゐるのだ。人は、彼の武勇や腕力を云々する。しかし、其の驚くべき天才的な智慧に就いては案外知らないやうである。彼の場合には、その思慮や判断が餘りにも渾然と、腕力行爲の中に溶け込んでゐるのだ。

俺は、悟空の文盲なことを知つてゐる。曾て天上で弼馬溫なる馬方の役に任ぜられながら、弼馬溫の字も知らなければ、役目の内容も知らないでゐた程、無學なことを良く知つてゐる。しかし、俺は、悟空の（力と調和された）智慧と判断の高さを何ものにも優して高く買ふ。悟空は教養が高いとさへ思ふこともある。少くとも、動物・植物・天文に関する限り、彼の智識は相當なものだ。彼は、大抵の動物なら一見して其の性質、強さの程度、その主要な武器の特徴などを見抜いて了ふ。雜草に就いても、どれが藥草で、どれが毒草かを、實に良く心得てゐる。その癖、其の動物や植物の名稱（世間一般に通用してゐる名前）は、全然知らないのだ。彼は又、星によつて方向や時刻や季節を知るのを得意としてゐるが、角宿といふ名も心宿といふ名も知りはしない。二十八宿の名を悉くそらんじてゐながら、實物を見分けることの出来ぬ俺と比べて、何といふ相異だらう！ 目に一丁字の無い此の猴の前にゐる時程、文字による教養の衰れさを感じさせられることはない。

問一 傍線部①の気持ち、わかりやすく説明しなさい。

問二 傍線部②のよりに語り手が感じるのはなぜか、説明しなさい。

問三 引用した部分からは、語り手（俺）「沙悟浄」のどのような性格が読み取れますか。考えるところを述べなさい。

令和2（2020）年度  
大阪大学大学院文学研究科（博士前期課程／一般選抜・春期試験）入学者選抜試験問題  
文化表現論専攻 比較文学専門分野 筆記試験

〔問題用紙は3枚です。〕  
（1枚目/3枚中）

1 以下の文章を読んで、問いに答えなさい。

出典は W. Anthony Sheppard, *Extreme Exoticism: Japan in the American Musical Imagination* (NY: Oxford University Press, 2019), p.9, l.6-p.10, l.19 です。

問題文は、著者の著作権等に配慮し、省略します。

問題文は、著者の著作権等に配慮し、省略します。

- A 下線部(1)を日本語に翻訳しなさい。
- B 下線部(2)のように、なぜ「日本」は'pure invention'といえるのか、わかりやすく説明しなさい。
- C 第2段落を要約しなさい。
- D 下線部(3)の内容にあてはまる事例を挙げて、なぜそういえるのか、わかりやすく説明しなさい。
- E 下線部(4)を日本語に翻訳しなさい。

2 3枚目の文章を読んで、翻訳された詩の工夫や特徴について、原文の英語と比較しながら分析して論じなさい。出典は、南日恒太郎『英詩藻鹽草』(北星堂書店, 1916), pp.32-35 です。

THE VALUE OF TO-DAY

Thomas Carlyle

So here hath been dawning  
 Another blue day;  
 Think, wilt thou let it  
 Slip useless away?  
 Out of eternity  
 This new day is born,  
 Into eternity  
 At night doth return.

またあな／＼と  
 日かす新たに  
 思へ、いかに  
 あだに我等は  
 かの永劫の  
 けふの此日は  
 かの永劫の  
 けふの此日は  
 かの永劫の  
 夜半にしなければ  
 中よりぞ  
 うまれきて、  
 中へこそ  
 歸るなれ。  
 あけそめて  
 加はりぬ。  
 けふの日は  
 すこすべき。  
 カールライル

今日のあたい

1. Thomas Carlyle (1795-1881). "Hero-Worship" "French Revolution" 等の散文の著述を以て一世を警醒したる大文豪なり。  
 2. Another blue day=one more blue day.

3. wilt thou let it Slip useless away? =will you (do you mean to) let it go by unimproved? "Slip" すり抜ける、"away" は "slip" に伴ふ。

Behold it aforetime  
 No eyes ever did;  
 So soon it for ever  
 From all eyes is hid.  
 Here hath been dawning  
 Another blue day;  
 Think, wilt thou let it  
 Slip useless away?

けふよりまきに  
 見得たる人も  
 またいつしも  
 隠れこそゆけ  
 またあな／＼と  
 日かす新たに  
 思へ、いかに  
 あだに我等は  
 あけそめて  
 加はりぬ。  
 けふの日は  
 すこすべき。  
 あらなくに  
 けふの日は  
 さこしへに。

1. Behold it aforetime No eyes ever did=No eyes ever did behold it aforetime=No eyes ever beheld it before.

2. So soon it for ever From all eyes is hid=so soon it is hid (hidden) forever from all eyes. "So" =in the same manner.

令和2(2020)年度  
大阪大学大学院文学研究科(博士前期課程/一般選抜・春期試験)入学者選抜試験問題  
文化表現論専攻 中国文学専門分野 筆記試験

[問題用紙は2枚です]

I 次にあげるのは元好問の詞です。これを読んで、後の問いに答えなさい。

【醉花陰】

候館青燈淡相對夜迢迢無奈掩淚惜分飛好夢空回留得閒愁在○同心易綰雙羅帶只  
連環難解且莫望歸鞍儘眼西山人更西山外

(注) 醉花陰一一雙調五十二字前後段各五句三仄韻

- 問1 注にしたがって上記【醉花陰】を断句し、押韻について説明しなさい。  
問2 上記【醉花陰】を分かりやすく日本語訳しなさい。  
問3 元好問について知るところを述べなさい。  
問4 上記【醉花陰】の特徴を論じなさい。

II 次にあげるのは姜夔『白石道人詩說』の一節です。これを読んで、後の問いに答えなさい。

(A) 《詩說》之作, 非為能詩者作也, 為不能詩者作, 而使之能詩, 能詩而後能盡吾之說, 是亦為能詩者作也。 (B) 雖然, 以吾之說為盡, 而不造乎自得, 是足以為能詩哉? 後之賢者, 有如以水投水者乎? 有如得兔忘筌者乎? 噫! (C) 吾之說已得罪於古之詩人, 後之人其勿重罪余乎!

- 問1 下線部(A)を分かりやすく日本語訳しなさい。  
問2 下線部(B)を分かりやすく日本語訳しなさい。  
問3 下線部(C)はどのようなことを述べているか、分かりやすく説明しなさい。  
問4 姜夔について知るところを述べなさい。

Ⅲ 次の各項目について、日本や西洋の文学も視野に入れながら考えるところを述べなさい。

- (A) 中国文学における男性と女性
- (B) 中国文学における理想と現実

令和2（2020）年度  
大阪大学大学院文学研究科（博士前期課程／一般選抜・春期試験）入学者選抜試験問題  
文化表現論専攻 英米文学専門分野 筆記試験

[問題用紙は4枚あります]

★ 一題ごとに別の解答用紙を用い、問題番号を記入すること。

1. 次の英文を読んで、以下の設問に答えなさい。

問題文は、著書の著作権等に配慮し、省略します。なお、出典は以下の通りです。

- (1) 第1パラグラフの大意を書きなさい。
- (2) 第2パラグラフで著者は Girard のモデルを批判的に分析している。そのモデルのどの点を批判しているのか。簡潔にまとめなさい。

【出典】 Eve Kosofsky Sedgwick, *Between Men: English Literature and Male Homosocial Desire* (Columbia UP, 1985), p. 21, l. 7-p. 22, l. 22

2. 次の英文を読んで、以下の設問に答えなさい。

問題文は、著書の著作権等に配慮し、省略します。なお、出典は以下の通りです。

- (1) この物語の作者と作品名をそれぞれ英語で書きなさい。
- (2) 下線部 (イ) を日本語に訳しなさい。
- (3) 下線部 (ロ) を日本語に訳しなさい。
- (4) 下線部 (ハ) の人物には、次にどのような出来事が起こるのか説明しなさい。

【出典】 Charles Dickens, *Oliver Twist* (Oxford UP, 1999), pp.11~12.

3. 次の詩を読んで、以下の設問に答えなさい。

問題文は、著書の著作権等に配慮し、省略します。なお、出典は以下の通りです。

- (1) この詩を日本語に訳しなさい。
- (2) この詩の形式について評釈しなさい。

【出典】 Christopher Marlowe, *The Complete Poems and Translations*, ed. Stephen Orgel (Penguin, 1971), p. 211, l. 1-24

3. 次の日本語を英語に訳しなさい。

問題文は、著書の著作権等に配慮し、省略します。なお、出典は以下の通りです。

【出典】 西山隆行. 『移民大国アメリカ』ちくま新書. p.0181.7~12.

5. 次のフランス語の文章の下線部を日本語に訳しなさい。

問題文は、著書の著作権等に配慮し、省略します。なお、出典は以下の通りです。

【出典：Victor Hugo, *Les Misérables*, édition présentée, annotée et commentée par Alexandre Gefen, Paris, Larousse, « Petits Classiques Larousse », 2007, p. 31, l. 11-23】

令和2（2020）年度

大阪大学大学院文学研究科（博士前期課程／一般選抜・春期試験）入学者選抜試験問題

文化表現論専攻 フランス文学専門分野 筆記試験

[問題用紙は2枚あります。]

問1 次の文章を日本語に訳しなさい。

On n'entendait qu'un bruit confus : Ah, qu'elle est belle ! Le Roi même, tout vieux qu'il était, ne laissait pas de la regarder, et de dire tout bas à la Reine qu'il y avait longtemps qu'il n'avait vu une si belle et si aimable personne. Toutes les Dames étaient attentives à considérer sa coiffure et ses habits, pour en avoir dès le lendemain de semblables, pourvu qu'il se trouvât des étoffes assez belles, et des ouvriers assez habiles. Le Fils du Roi la mit à la place la plus honorable, et ensuite la prit pour la mener danser. Elle dansa avec tant de grâce, qu'on l'admira encore davantage. On apporta une fort belle collation, dont le jeune Prince ne mangea point, tant il était occupé à la considérer. Elle alla s'asseoir auprès de ses sœurs, et leur fit mille honnêtetés : elle leur fit part des oranges et des citrons que le Prince lui avait donnés, ce qui les étonna fort, car elles ne la connaissaient point. Lorsqu'elles causaient ainsi, Cendrillon entendit sonner onze heures trois quarts : elle fit aussitôt une grande révérence à la compagnie, et s'en alla le plus vite qu'elle put. Dès qu'elle fut arrivée, elle alla trouver sa Marraine, et après l'avoir remerciée, elle lui dit qu'elle souhaiterait bien aller encore le lendemain au Bal, parce que le Fils du Roi l'en avait priée.

注) collation : おやつ    honnêteté : 礼儀    faire part de... : ～を分け与える

compagnie : 一同    Marraine : 名付け親（実は妖精）

【出典 : Charles Perrault, « Cendrillon ou la petite pantoufle de verre », in *id.*, *Contes*, textes établis et présentés par Marc Soriano, Paris, Flammarion, « GF-Flammarion », 1991, p. 280, l. 34 – p. 281, l. 11】

問2 次の問にフランス語で答えなさい。

Présentez le sujet de recherches que vous voulez étudier en master.

問3 【外国語（英語）筆記試験】 次の英語の文章を日本語に訳しなさい。

【問題文は、著者の著作権等に配慮し、省略します。なお、出典は次のとおりです。

Cohen, B. Bernard. *Writing About Literature*, revised edition. Scott, Foresman and Company, 1973. p.15, l.25～p.16, l.12.]



① 次の文章は、大槻文彦が書いた、国語調査委員会編纂『口語法別記』(一九一七(大正六)年)の序論の一部分である。これを読んで、後の問いに答えなさい。(原文の表記を一部改めてある)  
(この問題について解答用紙一枚を用い、縦書きにすること)

○東国の言葉は、昔は、京都の人からは賤しめられて居った。源氏物語の宿木、東屋などに、東国の言葉を「あづま声」と云い、平家物語に斎藤実盛の言葉を「坂東声」と云つてある。拾遺集に「あづまにて、養はれたる人の子は、舌だみてこそ、物は言ひけれ」、とあるのでも分る。然るに、東国武士の勢が盛になり、鎌倉室町の世に、東国言葉が、京都言葉を襲つて、江戸の世となって、又新に、江戸言葉が出来て、今では、(1) 江戸言葉が、日本の口語の目当となるようになった。

江戸は、もと、空漠とした地に、新に、町を開いたものであるから、土地の者も居たろうが、畿内、東海道筋の町人が、多く集つて来たものであつて、江戸の言葉は、その初は、甚だ混沌としたものであつた。然るに、一方に、武士という者があり、戦国時代の余習で、旗本奴の大小の神祇組、又は、男達、町奴の六方組、白柄組、などいうものがある、盛に出て来て、是等が、関東の荒くれた氣風を、言葉の上にも及ぼして、上方言葉のなまぬるいものを変じて、強く急なものとして、芝居の荒事狂言の上にも用いられ、それが広がつて、遂に、一つの江戸言葉というものが、成立つたものと思う。是が、元禄頃に至つて、一定したので、つまり、(2) 関西と関東との言葉が、雜つて出来たものである。

京都の言葉は、東西南北に広がつて、遠くなるに随つて、段々変わるが、その変り目は、色のぼかしのように、はっきりと境目が分らぬが、(3) 江戸言葉は、四里四方の内に限つて、其境を出ると、四方は、元の武蔵の言葉であるから、海中の島のようにである。これが俄に出来た都であるからである。しかし、江戸時代には、同じ江戸言葉の中で、町人言葉でも、山の手言葉、下町言葉、神田の職人言葉、吉原言葉、佃島言葉など、それぞれ違つて居た。武家の言葉の方でも、幕府の旗本言葉、御家人言葉、又は、諸国から勤番する者は別として、諸大名の江戸定府の家来の言葉などが、又異なつて居た。明治の世となつて、それが、大分混合して、諸国の侍などが、集つて常住するようになった。皆、江戸言葉に化せられるようになり、そうして漢字書生が、多く、政府の官員となり、学校の教員となつたから、漢語を遣う事が大に行われ、漢文の訓点書き下しの文語などが、口語にまじるようになり、遂に、今の東京言葉となつたのである。

○信濃越後と、美濃飛騨越中との間に、南北に亘る御岳系の大山脈で、言葉は、大凡、東西に分れて居る。万葉集の東歌と云うのも、遠江信濃から東である。(4) 今の口語も、此山脈で分れて居ること、次のようである。(以下略)

問一 傍線部(1)は、どのようなことを言っているのか、簡単に説明しなさい。

問二 傍線部(2)について、現在の東京の言葉における関西言葉の要素について知るところを述べなさい。

問三 傍線部(3)について、江戸言葉と江戸の外側の言葉との違いについて、知るところを述べなさい。

問四 傍線部(4)に言うような、東西の方言の違いについて、知るところを述べなさい。その際、以下の二点に留意しなさい。①文法にかかわる事項など、なるべく体系的な違いについて述べること。②東京と関西の違いではなく、東日本と西日本の違いについて述べること。

三 次の問いに答えなさい。(この問題について解答用紙一枚を用い、縦書きにすること)

問一 次の各項について、知るところを述べなさい。

- (1) 訓令式 (2) 格 (3) 角筆 (4) 二段活用の一段化 (5) 記録体

問二 次の資料は、一六九五(元禄八)年に刊行された書物の一部である。これを見て、後の問いに答えなさい。

假名多使現縮涼鼓集下

第九二ら

らんぢや	蘭麝 <small>二種</small>	らんぢたに	蘭奢待 <small>各書、海防、有東大寺之文</small>
らんぢん	雷神	らんぢう郎從	徒
らんぢん	老人 <small>樂日</small>	らんぢう老中	家
らんぢん	欄楯	らんぢう落楸	日
らんぢう	老少不定	らんぢう	落著
らんぢう	乱声 <small>音楽</small>	らんぢん	羅漢樹 <small>仙栢也</small>

第九三む

むぢぢ	驛路 <small>るん</small>	むぢづ	館 <small>日本紀、和名、金</small>
むぢぢ	梅津 <small>るん</small>	むぢぢ	連 <small>木、戸、姓</small>
むぢぢ	無盡意 <small>るん</small>	むぢぢ	貉 <small>狸</small>
むぢぢ	婦清 <small>おそひん</small>	むぢぢ	梅醋 <small>漿</small>
むぢぢ	梅漬	むぢぢ	六十
むぢぢ	無人声	むぢぢ	無任寺
むぢぢ	無常 <small>速</small>	むぢぢ	無上 <small>根上</small>
むぢぢ	無実 <small>今ひん</small>	むぢぢ	虫津清唾
むぢぢ	鼻齋 <small>ひん</small>	むぢぢ	埋瘞 <small>ひん</small>

- (1) □で囲った文字の中で、「和名」とは何を指すか詳しく説明しなさい。
- (2) この資料が編纂された目的を考え、国語史上の事柄と関係づけて詳しく説明しなさい。

令和2（2020）年度  
大阪大学大学院文学研究科（博士前期課程／一般選抜・春期試験）入学者選抜試験問題  
文化表現論専攻 日本語学専門分野 筆記試験

[問題用紙は3枚です。]

[1] 次の文章を読んで、後の問いに日本語で答えなさい。

問題文は、著者の著作権等に配慮し、省略します。なお、出典は次のとおりです。

Pennebaker, J. W. (2011). *The secret life of pronouns: What our words say about us*. New York: Bloomsbury Press. 1 ページ 1 行目から 3 ページ 22 行目まで

問1 下線部（A）を日本語に訳しなさい。

問2 下線部（B）“Each entry is like a fingerprint” とはどのようなことか、本文に即して説明しなさい。

問3 下線部（C）について、日本語を例にして自由に論じなさい。

[2] 次の12項目のなかから5項目を選んで、日本語で説明しなさい。

- (1) 語形のゆれ
- (2) 基幹語彙
- (3) 構文
- (4) 形式名詞
- (5) あいさつ
- (6) 常用漢字
- (7) 観察者の逆説 (observer's paradox)
- (8) 隠語
- (9) オフ・レコード・ポライトネス
- (10) IRE連鎖
- (11) 縦断研究
- (12) eラーニング

[3] あなたが今後研究しようとするテーマに関連するキーワードを5つ挙げ、それぞれについて日本語で説明しなさい。

以上

令和2（2020）年度

大阪大学大学院文学研究科（博士前期課程／一般選抜・春期試験）

入学者選抜試験問題

文化表現論専攻 音楽学・演劇学 専門分野（音楽学 受験分野）筆記試験

〔問題用紙は3枚あります〕

（1枚目/3枚中）

問1 次の項目のうち3つを選び、それぞれにつき100字程度で説明しなさい。〔配点21点〕

- |              |            |
|--------------|------------|
| 1) 装飾        | 2) アイスキュロス |
| 3) レクイエム     | 4) 虚実皮膜論   |
| 5) 佐竹本三十六歌仙絵 | 6) ドラクロワ   |

問2 複数の参考文献（日本語以外の言語で書かれた文献一つ以上を含む）をあげながら、自分の研究テーマについて説明しなさい。〔配点30点〕

(2枚目/3枚中)

問3 (1) 次の文章を日本語訳しなさい。なお、Thomas Adès は現代の作曲家、obfuscatory は「わかりにくい」という意味です。[配点 25 点] (出典 Thomas Adès and Tom Service, *Thomas Adès: Full of Noises*, 2012, p.vii, l.1- l.16)

(問題文は、著者の著作権に配慮し、省略します。)

(3枚目/3枚中)

問3 (2) 下の文章を読んで、ここに記されているものとは異なる「コミュニティー」のあり方を具体的に示しながら、「自作自演」についてのあなたの考えを述べなさい。

[出典：ジェームス・ドーシー「一九六〇年代のフォーク的主体性」(東谷護、マイク・モラスキー、ジェームス・ドーシー、永原宣『日本文化に何をみる？：ポピュラーカルチャーとの対話』、共和国)、71頁14行-72頁3行] [配点24点]

(問題文は、著者の著作権に配慮し、省略します。)

令和2(2020)年度

大阪大学大学院文学研究科(博士前期課程/一般選抜・春期試験)入学者選抜試験問題  
文化表現論専攻 美術史学専門分野 (西洋美術史受験分野) 筆記試験

[問題用紙は別紙を含め2枚あります。]

(1枚目/2枚中)

問1 以下の語句から3つを選び、それぞれ100字程度で説明しなさい。[配点21点]

- |              |            |
|--------------|------------|
| 1) 装飾        | 2) アイスキュロス |
| 3) レクイエム     | 4) 虚実皮膜論   |
| 5) 佐竹本三十六歌仙絵 | 6) ドラクロワ   |

問2 以下の10項目について簡潔に説明しなさい。[配点40点]

- |                   |                   |
|-------------------|-------------------|
| 1) スクロヴェーニ礼拝堂     | 2) パンテオン(ローマ)     |
| 3) シュテファン・ロッホナー   | 4) アーツ・アンド・クラフツ運動 |
| 5) フランク・ステラ       | 6) ヴィンケルマン        |
| 7) フランチェスコ・ポッロミーニ | 8) フレスコ画          |
| 9) ケルト写本          | 10) フランソワ・ポンポン    |

(2枚目／2枚中)

問3 下の英文を日本語に直しなさい。[配点 39 点] (図版番号などは無視してください) (出典：Inge Reist & José Luis Colomer, eds. *Collecting Spanish Art: Spain's Golden Age and America's Gilded Age*, New York, 2012, pp.43, 1.1-44, 1.8.)

問題文は著作権等に配慮し、省略します。